

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400118		
法人名	ケアサプライシステムズ 株式会社		
事業所名	グループホーム すもも		
所在地	群馬県伊勢崎市太田町856-1		
自己評価作成日	平成25年3月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成25年3月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒のリスクの高い利用者様、24時間見守りが出来ること。</li> <li>・食事がおいしいと言われること。</li> <li>・ホーム全体清潔感があり、ゆったりしている。</li> <li>・トイレは1日2回掃除しています。</li> <li>・近隣の方のギター演奏、ボランティア体操に来ていただき、楽しませてもらっている。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>区長・民生委員・長寿会・ボランティア等、様々な地域の人達との交流の機会が多く持たれており、地域密着型サービス本来の機能が活かされている。また、家族からの意見や要望等の抽出方法として無記名のアンケートが実施され多くの意見を引き出す事が出来ている。アンケートの集計及び出された意見や質問等については職員間で話し合いその結果を運営推進会議や家族等に報告し、共有のものとして運営に活かしている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基本に行動している。迷った時は理念を読み理解し、基本に戻り、実践している	理念を職員で共有できるよう、職員ロッカーやホールに掲示し、日頃のケアについて月1回開催の職員会議等で確認しながら実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	第3金曜日の2時より、ボランティアの方3名ホームにきて頂き、利用者様と体操を楽しんでいます。また日曜日にはギター演奏奏で頂きみんなで歌を唄います	区長、民生委員、町内会の生涯学習委員と公民館の講演会に参加し、作品展に出品している。ホームの前にある花壇の手入れボランティアにお茶出しや手洗い場を提供し顔なじみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月ごとに推進会議を開催地域の方々に参加して頂き、議題について話し合い意見を参考にしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の議題に外部評価の考評などを話し合い、ホームの向上の参考にしている	区長、民生委員、長寿会、市職員、家族等の出席にて2か月に1回開催しホームの行事・活動の報告、避難訓練の説明、玄関の施錠や離苑等についての意見交換がなされている。	市担当職員の出席の得られない会が2回あった。市担当職員の会議への参加をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からないことはすぐに行政へ相談に行くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今現在不穏の方がいる為、施錠していません。落ち着きましたら、解放します。	玄関とデイルームの間の扉は利用者の帰宅願望や不穏状態が強い一時期に鍵を掛ける事が有った。身体拘束に関する研修については法人内でマニュアルを基に勉強会を実施している。	利用者の精神状態を把握し、職員間で連携を取りながら見守りや対応の方法を検討し、日中は玄関に鍵を掛けないケアを行って欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム会議で虐待について、議題としてとりあげています。また見過ごされていないか常に注意をはらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成人後見人制度を利用されていた利用者様がいたので、色々制度について勉強になりました。各職員が向上心を持って取り組みたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者契約書、重要事項説明書に基づいて管理者が対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼び掛け、ご家族の要望等に添える対応をしている。又、年に1回家族アンケートを実施している。	家族へのアンケートを実施し、「アンケート調査集計報告」を作成、意見や質問等への回答を記載し、ホールに掲示している。又、運営推進会議時や家族等に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い、ホームでの改善点や意見を出し合える様な取り組みをしている。また、個人面接等も行いいただいた意見を運営に反映させている。	年2回、職員・ホーム長・事務長の三者で面接を行い職員の意見や要望が言える機会が持たれている。希望休や勤務の変更はホーム長に申し出て対応できるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を通じて各職員が向上心を持って働けるようにバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外に問わず、研修に参加できる機会を整えており、共有できるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状、同業者をの意見交換する機会は設けていないが情報交換を通じサービスの質を向上させるために社会資源の活用は不可欠であると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心配や不安を抱えて入所されるわけにいかにしてそれをサポートして行けるかが我々職員の役目であり、コミュニケーションや普段の何気ない会話から察し、重要傾聴していきたい		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から要望には出来るだけ添えるように心がけ、家族会を定期的に行い話合いの場を設けている。あまりホームに来られない家族には電話連絡もしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	迅速な対応をし他の機関との連携を行い必要としている支援と一緒に考え提供に結び付けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは家庭生活の延長であるので生活を共にすることで教えて頂く事も多々あるので敬意を持って対応していきたい		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に家族会や電話連絡を行い、ご家族様にも日々の出来事や情報を共有してもらうことで絆を大切にしながら共に支援をしていく体制を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族やご友人にいつでも来ていただけるような居心地の良いホームになるように心がけている。買い物に出かけたり散歩をしたりし外部との交流も図っている。	入居前の友人の面会や家族の訪問は自由に行われている。お墓参りや近所の商店への買い物等に希望を聞きながら外出する機会を持っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように、仲裁に立ち円滑に関わりが持てるよう間に入りコミュニケーションの手助けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて近況を聞いている。日曜日にギター演奏して頂き皆さんと歌を楽しんでいる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけて本人の意向を察したり昔話から思いを聞きとるようにしておます。困難な場合はご家族から情報を得て参考にしています。	入居時には、家族やケアマネジャーから生活の様子、性格や心身の状態を聞き取り、日常の事については職員間で意向等の情報の確認を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	そのかたの今までの生活や経験をたくさん訊きサービス提供をおこなっています。その方の多くを知ることで、良いサービスができると考えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員の職員が利用者様の状態が分かる様に申し送り帳をいつでも見れる様に工夫をしたり、細かな事でもケア記録に残しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員の職員が利用者様の状態が分かる様に申し送り帳をいつでも見れる様に工夫をしたり、細かな事でもケア記録に残しています。	月1回「施設サービス支援経過表」にモニタリングを記録し、3か月ごとにケアカンファレンスで職員からの情報や記録、ホーム長、家族から意見を聞いて、ケアプランの見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	声かけて本人の意向を察したり昔話から思いを聞きとるようにしておます。困難な場合はご家族から情報を得て参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望時は、事務所の電話を利用して。電話をかけたり、取次を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には、利用者様と共に参加し、ホーム内ではボランティア体操などを定期的に行い地域の方との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医の往診がある。受診・通院はご家族対応だが、都合でどうしても行けない場合はホームで対応している。	ホームの協力医の説明を行い、希望により定期的な往診支援がある。家族が受診支援を行う場合は、家族が現状を伝えられるよう書類を作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪看が来苑し、いつでも連絡が取れるようになっている。毎日バイタルチェックを行い、体調不良や普段と様子が違う方がいたら記録に残し、職員で協力し合い連絡・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は、その方の状態や情報を入院先の病院へ細かく伝えている。また、時々見舞いに行き、変化や状態を見るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携している医師より終末期などのお話があり次第、早い段階でご家族様との話し合いを設けご家族様の意見に沿って支援させて頂いております。	入居時に「重度化対応終末期ケア対応指針」を家族に説明して同意を得ている。又、年1回運営推進会議でも説明している。事例として家族の協力を得ながら実践し、ホーム内の居室でお別れ会を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習を受講して緊急時の手当での仕方など学んでおります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一日に非難訓練・防災訓練を行っており、一年に一度消防本部やご近所の方々の協力も得ての火災訓練も行っております。	スプリンクラーが設置され、近所には火災通報装置で通報できる体制となっている。24年10月29日、25年2月9日に消防署の立会いで日中想定避難訓練が実施された。備蓄は3日分程度、水・ビスケツト、缶詰等が用意されている。	年2回の消防署立会いの避難訓練のうち1回は夜間想定で行うことと、日頃より避難誘導を意識した自主訓練を増加してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の年長者と尊厳し、人間性を大切に言葉遣いにも注意をはらっている。居室では自分のプライバシーを守り、自分のペースで生活が出来るよう居室へ入る際にはノック・声かけをおこなっている。	慣れてくると言葉が乱れてくるためその都度ホーム長が注意している。法人の研修計画では研修委員会が自主的に発表会を開催し、内容を職員会議で伝達したり、「抄録集」等を配布している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望などあれば、計画を立てて無理のない方で外出出来るように対応する。お買い物などは希望されたお品を購入してきたり、体調・天候を考慮し一緒に同行して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調やお天気など考慮しながら意思を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室をお願いし、お好きなヘア・カット・カラー・パーマを選択し楽しんでます。。また職員の方でお化粧してさしあげたり、ネイルなどで美を感じて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目でも楽しんで頂けるようにワンプレートを利用したり色合いや盛り付けなどにも気を配る。片付けも体調を考慮し一つのコミュニケーションの場として会話を楽しみながらお手伝いをして頂いている。	週2回は業者より食材が届き、下ごしらえや作り方を聞きながら利用者と準備している。地域の方から頂いた旬の野菜で季節感を味わっている。お花見ではお弁当を持って出かける計画もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の献立ではメニューがかぶらないようにしています。嗜好や食事量・体調にあった献立にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っています。出来ないところは介助して、清潔を保つようにしています。虫歯・義歯の不具合のときは訪問歯科に診て頂いています。こえかけ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット類をおトイレ入り口に設置し、羞恥心・プライドに配慮いつでもご本人様で交換できる。実施記録を利用し定期的な排泄の声かけを行う。	トイレ誘導は声掛け等プライドに配慮し、チェック表を確認して行っている。失禁の場合は本人の気持ちに添いながら苦痛にならないよう、職員間で話し合い対応方法を共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にて便秘にならない様に心がけたり、毎朝ヤクルト提供で予防に努めている。便秘との訴えがあった時もすぐお薬に頼るのではなく運動や水分摂取を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や尊重を優先し、いつでも入浴出来る環境を作っている。	毎週火・木・土を入浴日と決め、週3回の入浴を基本とし、状態に応じてシャワー浴も行っている。一人ひとりの希望に添って入浴出来るよう衣類の準備をしている。	入浴の希望や入浴習慣をふまえ、固定された入浴日以外でも楽しく入浴が出来るような取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望に答え、気候に合わせて電化製品を利用し快適に休んで頂ける環境作りを行う。照明などにも配慮する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の誤嚥などない様に職員で管理しており、飲み込みまで見守り。処方箋もすぐ確認出来るようにケア記録にファイリングして常に新しい状態が把握できる状態である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の経歴を生かしお手伝いやレクなどで喜びを感じて頂いたり、ボランティアさんの訪問なども利用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の要望などを聞き外出したり、ホーム周辺やベランダを天候や体調の様子で散歩したりしている。また会社全体で家族も参加の旅行を行う。	天候の良い日には声を掛け外出している。バス旅行やバイキング形式の食事会に家族と参加している。4月にはお花見を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より了承の元、ご自分で小額のお金を所持してる方もいる。事業所が管理している方も、一緒に買い物へ行って欲しいものがいつでも買えるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は、事務所の電話を利用している。電話をかけたり、取次を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール等に季節の花を飾ったり、行事の写真、利用者様の作品(ぬりえ、折り紙等)を飾り、気持ちよく過ごせるよう、工夫している。	ホールには季節の花(桜・椿)が飾られ、観葉植物が置かれており、季節感が醸し出されている。壁には行事の写真や手作りのチューリップ・桜の作品が掲示され、穏やかな雰囲気を作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置し、誰でも座ってテレビを観たり、談話を楽しめるようにしている。畳コーナーでは、横になって休息できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が今まで使っていた家具や、日用品を持ってきて頂き、馴染みのあるものの中で、居心地よく過ごせる居室づくりに努めている。	使い慣れたソファ、マット、タンス及び家族の写真等持ち込まれている。利用者自作の絵/パズルが飾られている等心地良い工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂場、居室の場所等、わかりやすいように大きな字で表示したり、手摺りを設置している。		